

下瀬火薬 高性能すぎるゆえに

「大日本海軍全勝 バ艦隊全滅」

明治三十八年（一九〇五）五月三十日付けの新聞で、二段抜きの大見出しが躍りました。

日本の大勝利で幕を閉じた日本海海戦。その影の功労者として「下瀬火薬」が挙げられます。

下瀬火薬は明治二十六年（一八九三）、工学博士・下瀬雅允（まさあき）によつて開発されました。金属に触れると反応し、大量の熱を発するピクリン酸を主原料としたもので、圧倒的な火力を実現しました。

しかし、すべて想定通りだったわけではありません。

日本海海戦とその前の黄海海戦では、主に二種類の砲弾が使われました。

その一つ、艦船の装甲を貫いて爆発する徹甲弾は、期待通りの効果が得られませんでした。下瀬火薬が高性能、敏感すぎるゆえに、装甲を貫き、信管が作動する前に、命中時の衝撃で自らで発火、爆発してしまい、敵艦に穴を開けることができなかったのです。

結果、バルチック艦隊の主力の艦船で、轟沈

したものではありませんでした。

下瀬火薬が抜群の威力を発揮したのは、命中すると即座に爆発する鍛鋼榴弾です。

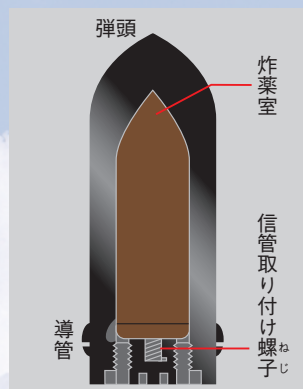
「伊集院信管」の鋭敏さと相まって、鍛鋼榴弾は甲板上で炸裂し、一瞬で火災を起こしました。この火災が戦闘員を巻き込み、早期に戦闘不能へと陥らせたのです。

生き残ったバルチック艦隊の士官は後日、「日本の砲弾は鉄板をも燃焼させる。水に浸った物でもたちまち燃え始める」と証言を残しています。

連合艦隊は昼に戦艦、夜に水雷艇と駆逐艦による攻撃を繰り返すことで、バルチック艦隊は

自沈したものを含めて二十一隻が沈没。連合艦隊側は水雷艇三隻のみの沈没に留まり、一方的な大勝利となりました。

⑩



鍛鋼榴弾の断面図



三笠だより
下瀬火薬と伊集院信管が使われた戦艦三笠の主砲弾、その実物が記念艦三笠の後部甲板上に展示されています。

徹甲弾と榴弾

日本海海戦でバルチック艦隊を撃滅し、日本を勝利に導いた下瀬火薬と伊集院信管。それが使用された主砲弾が三笠の後甲板上に展示されており、実物を見ることが出来ます。

砲弾には、装甲を貫くための徹甲弾と、甲板上のものを焼き尽くすための鍛鋼榴弾がありますが、その両方が並んでいます。

甲板上にはこの実物の砲弾の他、下瀬火薬と伊集院信管についての詳しい解説も展示されていますので、ぜひ現地に足をお運びください。



後甲板上に展示されている徹甲弾(左)と榴弾(右)

今月のおすすめ商品

三笠帽子(月桂樹) フリーサイズ
3,900円(税込)



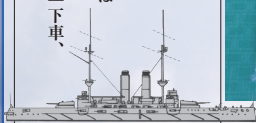
今月の読者特典

売店で『歴史街道』二〇一九年十一月号を見たと、先着10名様に「三笠」砲弾豆をプレゼント！



記念艦三笠

観覧料金
大人 600円
65歳以上 500円
高校生 300円
小中学生 無料
京急横須賀中央駅もしくはJR横須賀駅より三笠循環バスで「三笠公園」下車、徒歩1分



TEL: 046 (822) 5225
http://www.kinenkan-mikasa.or.jp/
神奈川県横須賀市稲岡町 82-19